

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	先端技術開発特論		
英文授業科目名	Advanced Lecture on Engineering Development		
開講年度	2004年度	開講年次	
開講学期	後学期	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-人間コミュニケーション学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学専攻		
担当教官名	坂東 忠秋		
居室	日立製作所システム開発研究所		

公開E-Mail	授業関連Webページ
bandoh@sdl.hitachi.co.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>大学、大学院で開講されている講義内容と企業で行われている研究開発の実態との間には大きな乖離があるが、このギャップの大きさを学生が実感できる講義はこれまで開講されてこなかった。このため、卒業して企業の研究開発の現場に配属されて、ある種のカルチャーショックを受けることになる。</p> <p>本科目は、研究開発型企业における現場の第一線で活躍されている研究者にそれぞれの分野のトピックスを、実体験を交えて講義してもらうことを目的として開講される。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
特になし。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
特になし。

<b>【教科書等】</b>
特になし。必要に応じて資料を配布する。

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

電気・情報・通信分野で、日本が世界に誇れる産業・技術について学ぶ。1テーマは3回程度の講義として、その分野を代表する講師が話をする。

1. 大規模システム制御(例：鉄道情報制御システム)  
新幹線 / 首都圏運行管理システム、車上システムなど
2. 高度情報基盤(例：ハードディスクとストレージシステム)  
ハードディスク技術、ストレージシステム、応用
3. 医療、計測、バイオ  
画像診断、遺伝子・蛋白質計測、医療・バイオ情報
4. コピキタス社会の実現に向けて  
ミューチップ、トレーサビリティなど

### 【成績評価方法および評価基準】

出席及びレポートで評価する。8割以上の出席と、レポートへの記載内容が基準をクリアしていることが合格の条件。

### 【オフィスアワー：授業相談】

特に設けていないが、質問等は適宜受け付ける。

### 【学生へのメッセージ】

講師の先生方は、本業の忙しい中、特別に本学のために、講義をしてくださるのであるから、いいかげんな気持ちで受講することのないように。受講態度が悪い学生は退席してもらい、単位は認めない。(本学担当教官 森崎 弘)